

日本労働研究機構 ○佐野志津子

お茶女大家政 袖井孝子

都留文科大学

小澤千穂子

〔目的〕 老人介護と職業との両立をはかるうえで、デイケア・サービスは有効性が高いとされる。そこで、デイケアを利用している介護者を対象に行った配票調査と訪問面接調査をとおして、介護と職業との両立状況など介護者の就業状況や、介護と職業との両立に対する意識について明らかにしていく。

〔調査方法と対象〕 第1報と同じ。

〔結果〕 ①有職者は、全体の約4割。老人の病状や生活状況、介護者自身のこだわり意識などにより、介護者の就業状況は影響を受ける。②介護以前に就業していた者のうち、介護するようになってから「仕事をやめた」とする者は34%、「休暇をとった(休職した)」とする者は25%、「仕事(勤務先)を変えた」とする者は9%(以上、複数回答)。これらも含め、介護のために「仕事上、なんらかの変化があった」とする者は約6割にもなる。③デイケア・サービスを利用することによって、仕事を辞めずにすんだケースもあるが、就業終了時間をみると、大部分はデイケア終了までに間に合わず、他の援助を受けるなどしている。④デイケア・センターへの要望をみると(複数回答)、「毎日利用できる」とよいが約4割、「利用時間がもっと長い方がよい」が約3割。「利用時間の延長」に対するニーズは、介護のために退職あるいは転職したことがある者に高い。⑤老人介護をしながら仕事を続けていくための職場のサービス・制度に対するニーズは、就業形態や介護による退職あるいは転職経験があるかどうかにより違いがみられる。(以上、数値は、1989年配票調査結果による)